

『召しにふさわしく④』

'22/08/07

聖書箇所:エペソ人への手紙 4章 1-2節(新約 p.377)

きっと、皆さんも、何か「言葉による勘違い」を経験されたことがあるかと思います。全く同じ時代に生きる、同じ日本人同士が話したとしても…、時々、使っている言葉の意味や習慣が違うことによって、そこに誤解が生じてしまうことが有り得ます。ましてや、2000年も前に書かれた聖書という言葉やその教えを理解するためには、かなりの根気や努力があって当然ではないでしょうか？

例えば、「神様」という言葉の定義やそこからイメージするものについて…、例えば、真唯一の絶対者なる神様だけを信じているイスラエル人を始め、キリスト教やイスラム教の国々で神様と言うと、世界の創造者であり、絶対者…、また、主権者というような存在をイメージすると思いますが、私たち日本人の多くは、そうではなく…、「神様」と聞いても、「何の神様ですか？」というような質問が逆に返ってくるかも知れません…。一口で、「神様」と言っても、その意味するものが結構違っている場合があるわけです。

例えば、若い人たちなら、ほとんどが知っていると思いますが、「ドラゴンボール」というアニメがあります。そこに登場する神様は、何と言うか…、非常に俗っぽいのです。神様よりも強く、力ある存在がゴロゴロ居るし、その神様が歳を取ってきたら、代替りをして…、別の者が後を継いだりもするのです…。まあ、そんなことはどうでも良いのですが…、もし、私たちがそういったイメージを持っている人たちに、神様という存在について伝えるなら、そういった部分から説明する必要があるのかも知れません…。

命題: 神は、クリスチャンがどのように生きることを願っておられるのでしょうか？

そういった理由もあって、私たちは、ここ4週ほど…、ほとんど、言葉の意味について学んできています。それは、私たちのイメージする言葉で、聖書や神様の教えを理解するのではなく、正しい聖書解釈をもって、神様の教えというものを理解する必要があるからです。…ここしばらく、短い聖書箇所で、結構な時間を費やしてしまって、ちょっと申し訳ないと思うのですが、どうぞ、もうしばらくお付き合いください…。どうぞ、聖書をお持ちでしたら、エペソ 4:1-2 をお開きください。

このエペソ 4:1-2 を通して、私たちは、神様が私たちクリスチャンに対して、どのような歩みをするを願っておられるのか？ということをお学ばしております。願わくは、このメッセージを聞いてくださった皆さんが、ますます、キリストの似姿に変えられて、イエス様が御持ちであったような聖書的な資質を、この世の中において現わしていただきたいと思っております。今日も、初めに、みことばをお読みします。

- さて、主の囚人である私はあなたがたに勧めます。召されたあなたがたは、その召しにふさわしく歩みなさい。
- 謙遜と柔和の限りを尽し、寛容を示し、愛をもって互いに忍び合い、

I・謙遜 ! (2節)

まず、このみことばが1番最初に挙げてくれている資質は「謙遜」であります。所謂、日本人が得意な…、うべだけの謙遜…、言葉だけのへりくだりなどではありません。真の神様を知ったがゆえ、その神様の前に汚れきった自分自身というものを知ったがゆえの、ある意味…、“カルチャー・ショック”を受けることです。「自分は、人様に何かを誇ったりできるような立派な人間ではない…。私は本当に、心の貧しい人間で、罪に汚れ切ってしまった…」そういったことを分かったら、私たち人間はもう、へりくだるしか無くなりませぬ…。そういったことが、聖書の教える謙遜なのです。

また、それだけではありません。私たちの神であられ、また、救い主でもあられるイエス・キリストが、自らを低くして、人間となつてくださっただけでなく…、実に、十字架の死までも受け入れてくださったほどに、私

たちの必要を満たそうとして…(私たちを罪から救うために)、仕えるということに徹してくださったからです！これこそが神の愛…、アガペーの愛の実践です！だから、私たちは、そのイエス様の模範にならおうとするのです。

II・柔和 ! (2節)

その次…、先週、私たちが学んだ資質は「柔和」でした。柔和とは、皆さんがよくご存知のように…、「簡単に、怒ったりしないこと」です。しかし、この聖書が私たちに教えてくれている「柔和」とは、どんなことがあっても、決して、怒ってはならない！というようなものではありませんでした。

…と言いますのも、私たちの模範であるイエス様が、必ずしもそうではなかったからです。罪に対する正しい怒りもあるのです！…間違ったことを正そうするために、その者が自分の罪に気づき、その罪を悔い改めるために、時には、相手に痛みを与えることが必要な時もあるのです！

その良い例が、子どもたちに対する懲らしめです。例えば、箴言 13:24 のみことばは、こう教えます。『むちを控える者はその子を憎む者である。子を愛する者はつとめてこれを懲らしめる。』…このような懲らしめを与える親は、聖書が教える『柔和』と矛盾するのでしょうか？⇒いいえ、決してそうではありません。子どもたちを愛するがゆえに、親たちは聖書のみことばに沿って、時には、必要な懲らしめを与えるのです。先週学んだように…、ここで言われている『柔和』とは、決して怒らないことではなく、怒るべき時には怒り…、叱るべき時に叱ることです。逆に、怒るべきでない時には、決して怒らないことです。そのような正しいバランス…、そのような正しい判断を私たちは身に付けていくべきだし…、私たちが本当の意味において、霊的に成長していく時に、そういったことが自然とできるようになっていくのです。

ここまでが前回までに学んだ内容の概要です。…それと、今日のみことばの 2 節にある、これらの言葉の後にはこう続きます、『謙遜と柔和の限りを尽し…』…。実は、この部分のギリシヤ語を直訳すると、「すべての謙遜と柔和をもって…」となります。英語で言う、「all」(全て)という言葉がここで使われているのです。…つまりは、「限界まで、謙遜と柔和を実践していきなさい」ということです。「最大限、あなたの謙遜と柔和とを活用しなさい！」ということですね。私たちは、どこかで、適当に済ませてしまっただけではいらないでしょうか？謙遜とか、柔和に関して…、「まあ、この程度で良いか…。これだけへりくだってあげば、もう十分だろう。ここまで我慢したのだから、もう怒っても良いだろう…」なんて…。

III・寛容 ! (2節)

さて、今からは、3つ目の態度・資質を見ていきましょう。それは「寛容」であります。今日は、この『寛容』という言葉について、皆さんと、一緒に考えていきたいと思います。

●『寛容』という言葉の意味

まず、今回も、この『寛容』という言葉も、日本語の辞書で引いてみると、「心が広くて、他人の言動をよく受け入れること。また、他人の罪過(=罪と過ち)を厳しくとがめだてしないこと。」というように説明されておりました。次に、この『寛容』と訳されているギリシヤ語の言葉(μακροθυμία)を辞書で調べてみると、こう説明されておりました。「容易に怒らないこと、長く耐え忍ぶこと、寛容」…。そのように、ギリシヤ語の言葉には、「忍耐」という意味も含んでいますので、使われている箇所によっては、日本語訳聖書では「忍耐」と訳されている聖書箇所もあります。しかし…、日本語、ギリシヤ語、そのどちらの説明を見ても、そう大差ないように思いますが…、いまいち、ピンと来ないと言うか…、分かりにくいように思いませんか？…私だけでしょうか？(笑)

そこで、もう少し、この言葉を観察していきたいと思うのですが、この言葉の元々の意味は、決してくじけないような、「不屈の精神」を表わしていたのだそうです。そういうことから、ある、ギリシヤの教父(≒有名な監督)であったクリュストモスという人物は、この『寛容』という言葉は、「報復する力を持っていながら、決して報復しない精神」であると言い表わしたそうです。

どうぞ、皆さん。ローマ 2:4 をご覧くださいませ？『それとも、神の慈愛があなたを悔い改めに導くことも知らず、その豊かな慈愛と忍耐と寛容とを軽んじているのですか。』⇒ここで、『寛容』とありましたが、…ここで言われている寛容とは、誰の寛容のことでしょうか？…また、ローマ 9:22、『ですが、もし神が、怒りを示してご自分の力を知らせようと望んでおられるのに、その滅ぼされるべき怒りの器を、豊かな寛容をもって忍耐して下さったとしたら、どうでしょうか。』⇒ここでも同じように、『寛容』と記されておりましたが、先程のみことばも含めて…、一体、誰の寛容のことを言っているのでしょうか？⇒…神様ですよ！神様の側の寛容のことなのです！

実は、この『寛容』という言葉は、新約聖書で 14 回使われているのですが、その使われ方を見た時、主に、神様の側の…、罪深い人間に対する我慢や忍耐を表わすために用いられているのです。そして…、それゆえに、神様に倣うように促されているクリスチャンに対しても…、「神に倣って、寛容というものを身に付けていきなさい！」というように使われていることが分かるのです。

ですから、私たちがこれまでに学んできた3つの性質の内、謙遜と柔和とは、主に、イエス様の内に見られるようなものでした…。(あんまり、聖書は父なる神様が謙遜であるとか、柔和であるとは教えないでしょ?)でも、今日、3つ目に見ている寛容という性質は、父なる神様にも見られるものなのです。

●果たして、神様は『寛容』だろうか？

以上、寛容という言葉の意味を紹介させていただきましたが、そこで、こんな説明もありました。もう1度、紹介させていただきますと…、「心が広くて、他人の言動をよく受け入れること。また…、他人の罪過(≒罪と過ち)を厳しくとがめだてしないこと。」とあるのです。

あれ？…でも、ひょっとしたら、ある方は、こう思われるかも知れませんが、「他人の罪過(≒罪と過ち)を厳しくとがめだてしないってあったけど、神様は厳しい程に聖く正しい御方だから、ここで言われているような、寛容とは違うように思うのですが…」って…。そう思われませんか？しかし、考えてみてください。私や皆さんは、果たして、聖い存在でしょうか？絶対的に聖く正しい神様の前に立ちおおせるような存在でしょうか？…また、皆さんがこれまでに犯してこられた罪は、その…、聖い神様から御覧になった時、どのような罰が下るべきでしょうか？

どうぞ、ローマ 1:28-32 をご覧ください。ここでは、特に、異邦人の罪について指摘されておられるのですが、こうあります。『28 また、彼らが神を知ろうとしたがらないので、神は彼らを良くない思いに引き渡され、そのため彼らは、してはならないことをするようになりました。29 彼らは、あらゆる不義と悪とむさぼりと悪意とに満ちた者、ねたみと殺意と争いと欺きと悪だくみとでいっぱいになった者、陰口を言う者、30 そしる者、神を憎む者、人を人と思わぬ者、高ぶる者、大言壮語する者、悪事をたくらむ者、親に逆らう者、31 わきまのない者、約束を破る者、情け知らずの者、慈愛のない者です。32 彼らは、そのようなことを行えば、死罪に当たるといふ神の定めを知っているが、それを行っていただけでなく、それを行う者に心から同意しているのです。』⇒このように、死罪という神の定め…、神の罰があるということです。今、皆さんは、ここに挙げられてある罪のリストをご覧になられましたでしょ。…この中に誰一人、このリストに挙げられている罪を犯したことの無い方はいらっしゃらないでしょう…。私にも、また皆さんにも最もふさわしい罰…、当然、受けなければならぬ報いは、“死刑”なのです！…なのに、私も皆さんも生かされているというのは、それだけで神様の大きな寛容のゆえなのです。

聖書のみことばは、こう教えてくれています。『造られたもので、神の前で隠れおおせるものは何一つなく、神の目には、すべてが裸であり、さらけ出されています。私たちはこの神に対して弁明をするのです。』(ヘブル 4:13)⇒このように、神様にとってはすべてが裸であり、すべて御見通しなのです！どんなに、皆さんが隠そうとしても、神様相手に隠しおおせるものは何もありません。神様の前には、すべてが明らかであり、神様はすべてのことを御存知なのです！

その証拠に…、クリスチャンであろうと、クリスチャンでなかりと、神様の前に悪いことをした者たちには、その心に、何かしら責めるものがあるはずですよ！神様が、そうやって、私たち人間の心の内に働きかけておられるのです！「そんなことをしてはならない！それはわたしの忌み嫌うことであって、そういったものは、あなたに何の祝福もたらさない！」って…。

ね、皆さん。私たちの造り主であられ、すべてのものの創造主であられる真の神様は、『寛容』だと思われませんか？だから、罪深い私も、また、皆さんも、直ちに滅ぼされることなく、今、こうして生かされているのです。…お分かりになってくださいますか？

●『寛容』と『柔和』とは矛盾しないだろうか？

じゃあ、今度は、こんな疑問が出てこないでしょうか？⇒前回、『柔和』について学んだ時、確かに、柔和とは、世間一般が言うように、「性質や態度などが優しくて柔らかいさま」ではありますが、それだけではなく…、怒るべき時に怒り…、人に注意すべき時には注意することであり…、また、怒るべきでない時には決して怒らず…、耐えるべき時に耐えるというような態度であると、先週、お話ししましたでしょ。それと、柔和とは矛盾しないでしょうか？…と言いますのも、罪とは間違いなく裁かれるべきものであり…、決して、聖く正しい神様が見逃されるはずがないからです。

⇒確かに、その通りです。Ⅱコリント 5:10 のみことばでも、『なぜなら、私たちはみな、キリストのさばきの座に現れて、善であれ悪であれ、各自その肉体にあってした行為に応じて報いを受けることになるからです。』とあるように、神様はクリスチャンだけでなく、すべての人間を正しく裁かれます！…ただ、神様は、その裁きを下すことを延ばしておられる…、延期しておられるに過ぎないのです！

前回にもお話ししましたように、確かにイエス様がそうであられたように、怒るべき時には怒ることが必要です。…でも、皆さん、覚えてくださっていますか？どうして、イエス様は、ある時に、弟子たちを厳しく叱られたのでしょうか？⇒それは、こうでした。弟子たちが、まだ救われてはいない多くの子どもたちやその両親たちがイエス様のもとに来ようとしていたのを邪魔したからです！しかも、弟子たちは、何の功績が無いにも関わらず、高慢かつ高圧的な態度でもって、そういったことをしたからです！…覚えてくださっていますか？

また、イエス様は、ある時に、パリサイ人たちに対しても、怒りを露わにされました…。安息日に関する問答のところでした。そのパリサイ人たちは、神様の教え(≒律法)を教えておきながら、そのしていることは、善ではなく悪であったからです。彼らは、善ではなく悪…、人を助けることではなく殺すことを考えていたからです！だから、イエス様は、激しく怒られたのです。本来なら、1番、神様の教えに通じていて、神様からのメッセージを語っている者であるはずのパリサイ人たちが間違ったことを語っていただけでなく…、その心があまりにも頑なであったからです！だから、イエス様は御怒りになされたのです。そうだったでしょ？

つまり、父なる神様も、また当然、イエス様も、その思い(≒目的)は同じです。父なる神様も、イエス様も、人が救われることを1番に願っておられるのです！罪を厳しく問い詰めることが、その人を救いに近づける場合、イエス様はそうされたのです。また、その罪を一時的に忍耐することが、その者を救いに近づけるのなら、イエス様はそうされたのです！…皆さん、ご存知でしょ。イエス様は、十字架の上で、自分を激しくのしる者たちに、どんなことを祈られましたか？ルカ 23:34 に、こうあります。『…父よ。彼らをお赦し

ださい。彼らは、何をしているのか自分でわからないのです。…』⇒何と、イエス様は、自分を十字架に追いやり、自分をあざける者たちの救いを願ってくださってくださったのです。

そうして、そのしばらく後に、どんな記事が書かれてあるのか、皆さんはよくご存知でしょ。…そう！あの強盗が救われたという話です！一体いつ、あの強盗が救われたのでしょうか？⇒みことばは、はっきりとは教えません。しかし、恐らくは、イエス様と一緒に十字架にかかっている最中です。あの十字架上で、救われた方の強盗は、イエス様の言動などを見て、イエス様のことを真の神、自分の救い主として信じたのです。

ですから、その記事の直ぐ後には、こんなエピソードが記されています。ルカ 23:46-49、まさしく、十字架の上で、イエス様が息を引き取られた直後のエピソードです。『46 イエスは大声で叫んで、言われた。「父よ。わが霊を御手にゆだねます。」こう言って、息を引き取られた。47 この出来事を見た百人隊長は、神をほめたえ、「ほんとうに、この人は正しい方であった」と言った。48 また、この光景を見に集まっていた群衆もみな、こういういろいろの出来事を見たので、胸をたたいて悲しみながら帰った。49 しかし、イエスの知人たちと、ガリラヤからイエスについて来ていた女たちとはみな、遠く離れて立ち、これらのことを見ていた。』⇒百人隊長が…、つまりは、イエス様を十字架につけた側のローマの兵隊が神様を…、イエス様を？ほめたえたと言うのです。それだけじゃありません…。この百人隊長は、イエス様のことを、『ほんとうに、この人は正しい方であった。』と言ったのです。確かに、聖書は、「この百人隊長が救われた…」とまでは言っていません。でも、救いに近づいたと考えることはできます。また、そこに居た群衆も皆、悲しみながら帰っていったとあります。そのように、その当時、イエス様の祈りや死に様を見て…、感銘を受けた者がたくさん居たのです…。

このように、真の神様は、私やあなたに対してだけじゃない、すべての者に対して寛容なのです。だったら、私たちクリスチャンも、すべての方たちに対して、寛容であるべきです。罪を指摘することが、その人を救いへと近付け、その人をより神様に近付けるのなら、その罪を指摘すべきです。しかし、(こんなことを言うと、問題発言になるのかも知れませんが、)罪を指摘することが、救いに何ら貢献しないなら、ひよっとしたら、ある時には、何も言わない方が良いのかも知れません…。

私は、すべての路傍伝道を否定するつもりは決してありません。実際、公園で遊んでいる子どもたちに福音を語ったこともありますし…、一軒一軒、順番に家を訪問して福音を語ろうとしたこともあります。…しかし今、私たちは、例えば、近くの神社に行って、そこで熱心に拝んでおられる方に、「それは真の神様ではなく、ただの作り物です。真の神様を信じなさい！」とは言わないでしょ？そういうことは、恐らく…、現代の日本、また、今の時代においては受け入れられず…、証しになるところか、かえって、逆効果だからです。違います？

道を歩いていて、ゴミをポイ捨てする人を見て、正直、私も腹が立ちますが何も言わない(=言えない?)のは、その罪を指摘して、福音を語ろうとしても、恐らくは、その人が救いに近付くというよりも、自身自身の身の危険性の方が圧倒的に高くなりますよね。しかし、それが自分の知人であったり、教会のメンバーであったりしたら、違いますでしょ？自分の忠告に耳を傾けてくれることを信じて…、お互いが神様に喜ばれる者となっていくために、愛をもって、忠告するのです。皆さんだって、そうじゃありません？…つまり、全く同じ行動を見かけても、人によって、私たちも取る行動が180度違ったりするのです。でも、目的は一緒です。すべての人たちに救われてほしいのです。

●神様の寛容は無期限？

最後…、神様の寛容の期限(=時間の長さ)について考えたいと思います。ちょっと、皆さん。創世記6章をご覧ください。創世記6:5-13、『5【主】は、地上に人の悪が増大し、その心に計ることがみな、いつも悪いことだけに傾くのをご覧になった。6 それで【主】は、地上に人を造ったことを悔やみ、心を痛められた。7 そして【主】は仰せられた。「わたしが創造した人を地の面から消し去ろう。人をはじめ、家畜

やほもの、空の鳥に至るまで。わたしは、これらを造ったことを残念に思うからだ。」8 しかし、ノアは、【主】の心にながらなっていた。9 これはノアの歴史である。ノアは、正しい人であって、その時代にあっても、全き人であった。ノアは神とともに歩んだ。10 ノアは三人の息子、セム、ハム、ヤペテを生んだ。11 地は、神の前に墮落し、地は、暴虐で満ちていた。12 神が地をご覧になると、実に、それは、墮落していた。すべての肉なるものが、地上でその道を乱していたからである。13 そこで、神はノアに仰せられた。「すべての肉なるものの終わりが、わたしの前に来ている。地は、彼らのゆえに、暴虐で満ちているからだ。それで今わたしは、彼らを地とともに滅ぼそうとしている。』⇒所謂、「ノアの箱舟」の冒頭部分ですが…、神様の思いは分かっていますよね。

あまりにも、人間たちの思いが悪に傾倒して(=片寄って)いたからです！それで、神様は、ノアの家族以外の…、地上のすべての人間や家畜に至るまで滅ぼされることを決められました。そこで、神様は、信仰深いノアに、箱舟を造ることを命じられるのです。

そこで、皆さんに質問です。ノアは、この箱舟を造るのに、何年を要したでしょうか？⇒ヒントは、箱舟の大きさです。創世記6:15-16に何とあるか。『15 それを次のようにして造りなさい。箱舟の長さは三百キュビト。その幅は五十キュビト。その高さは三十キュビト。16 箱舟に天窓を作り、上部から一キュビト以内にそれを仕上げなさい。また、箱舟の戸口をその側面に設け、一階と二階と三階にそれを作りなさい。』⇒言うまでもないことですが、箱舟は、非常に丈夫な木材で…、14 節にあるように、『ゴフェルの木』で作られました。その長さは130m以上、幅20m以上、高さ13m程の大きさです。…まあ、このように言っても、私を含めて、その大きさをイメージしにくいでしょうが、あの有名なタイタニック号(乗員乗客1500人以上)とそう大差ない大きさになるそうです。ちなみに、この長さ、幅、高さの比率(30:5:3)は、現代でも、タンカーなどの大型船を造る場合の、最も安定する黄金比とほぼ同じ比率なのだそうです。

一体、こんな大きな船を全くの素人であったノアとその家族(Ⅱペテロ2:5などから8名)は、何年かかって造ったのでしょうか？⇒答えは、創世記6:3にあると私は思います。『そこで、【主】は、「わたしの霊は、永久には人のうちにとどまらないであろう。それは人が肉にすぎないからだ。それで人の齢は、百二十年にしよう」と仰せられた。』⇒ここに書かれてある、『百二十年』(מֵאוֹתָיִם וְשָׁנָיִם)とは、概数で、“大体120年”と言うことです。実は、ここの個所は、その後の人間たちの寿命についての預言ではないと、私は考えます。何故なら、創世記11章をご覧くださいと分かる通り、このノアの時代以降の人間たちも、しばらくは、120年をゆうに越える(⇒400歳以上！200歳以上！)長生きをしているからです。…ちょっと、皆さんに考えていただきたいのですが、神様が「今後、人間の寿命は100年と少しである！」とおっしゃられたら、そのことは、段々と、少しずつ、そうなっていくと思います？…それとも、神様がそうおっしゃられた、その直後から、そのお言葉通りになると思います？どちらでしょう？…そうでしょ！神様の言葉は、必ず、その通りになるのです。でも、ノアの洪水以降は、何世代にも渡って、人間の寿命は長いままでした。…ということから、私は、創世記6:3の宣言は、人間の寿命に関する宣言ではなく、その時点からノアの洪水までの期間であると考えます。

つまり、神様は、ノアに、「もう我慢ならない！」と警告されてから、何と100年以上も、その裁きである洪水を延ばされたのです！…確かに、家族8人で箱舟を造り続けたノアの信仰も素晴らしいですが、その信仰を与え…、その忍耐を支えてくださったのも神様です。

じゃあ、神様は、どうしてノアに警告なさってから、わざわざノアに箱舟を造らせて、100年以上も待たれたのでしょうか？⇒ちょっと、皆さん。Ⅰペテロ3:20をご覧ください。『昔、ノアの時代に、箱舟が造られていた間、神が忍耐して待っておられたときに、従わなかった霊たちのことです。わずか八人の人々が、この箱舟の中で、水を通って救われたのです。』⇒このみことばは非常に難解です。…ですから、ここの個所のことをあまり詳しく触れたくはないのですが…(笑)、途中で、こういうくだりがありましたでしょ。『神が忍耐し

て待っておられたときに…』って…。ここで使われてある『忍耐』という言葉は、今日のエペソ 4:2 の『寛容』という言葉と同じ単語が使われてあります。つまり、神様は、100 年以上もの間、人間の罪に忍耐しておられたのです！神様は、あの…、イスラエルの民たちをエジプト軍から救ったように水の壁を作るとか…、また、別の方法で、手っ取り早く、ノアの時代の人々を滅ぼすこともおできになったはずですが！…しかし、神様はそうはなさいませんでした…。忍耐しておられたからです。その間、ノアたちは箱舟を造ただけではありません…。Ⅱペテロ 2:5 には、『義を宣べ伝えたノアたち…』とあります。ノアたちは、100 年以上もの間、箱舟を造りながら…、また、「こんな所に洪水が来るものか！」と馬鹿にされながらも…、神様の義を…、救いを語り続けたのです！

もう1個所…、Ⅱペテロ 3:6-9 をご覧ください。『6 当時の世界は、その水により、洪水におおわれて滅びました。7 しかし、今の天と地は、同じみことばによって、火に焼かれるためにとっておかれ、不敬虔な者どものさばきと滅びとの日まで、保たれているのです。8 しかし、愛する人たち。あなたがたは、この一事を見落としてはいけません。すなわち、主の御前では、一日は千年のようであり、千年は一日のようです。9 主は、ある人たちがおそいと思っただけのように、その約束のこゝを遅らせておられるわけではありません。かえって、あなたがたに対して忍耐深くあられるのであって、ひとりでも滅びることを望まず、すべての人が悔い改めに進むことを望んでおられるのです。』⇒今から、2000 年も前の、この当時、弟子たちは、「もうすぐイエス様が迎えに来てくださる！」と信じていました。今…、それから 2000 年も経ちました。神様は、約束を忘れておられるのでしょうか？面倒臭がっておられるのでしょうか？⇒いいえ、神様は、今、滅びに向かっている人が悔い改めて…、イエス様を信じることができるようになるように…、あなたが救われて、天に行くことができるように、1日1日と、裁きの日を遅らせてくださっているのです…。

<励ましの言葉>

最後に、今のみことばのすぐ後をご覧ください。Ⅱペテロ 3:15、この個所は、リビングバイブルの訳の方が分かり易いので、リビングバイブルの訳の方を紹介させていただきます。こうあります。「なぜ主が、こんなにも長く待っておられるのか、よく考えてみなさい。主は、私たちが救いの教えを伝える時間を与えておられるのです。(学識の深さで知られる、愛する兄弟パウロも、多くの手紙の中で、同じことを書いています。)」⇒今紹介したⅡペテロ 3:9 で、『忍耐』と訳された言葉が、今日、私たちが学んでいる『寛容』と同じ言葉です。神様は、それほどまでに忍耐してくださっているのです！…寛容でいてくださっているのです。だから、私も…、また、皆さんも救われたのです！

しかし、神様の忍耐を…、また、寛容を無期限だと考えるべきではありません。いつかは分かりませんが、神様は、その日、その時を御定めになっておられるからです。神様は、ノアの時代に、大洪水を起こされたように、今も忍耐をしてくださっています。ひょっとしたら、今の時代に、神様がしてくださっている忍耐は、あのノアの時代以上かも知れないのです…。神様は、この世を、いつの日か終わらせなさいませ！…ひょっとしたら、それは今日かも知れないし、明日かも知れないのです！間違いなく…、タイムリミットがやって来るのです！

まだ、イエス様をお信じになっておられない皆さん…。どうぞ今日、今の内に…、神様の救いを受け入れてください。すべてを造られた真の神様を…、聖書が教える聖く正しい神様を、あなたのために、イエス様を遣わしてくださって、罪の贖いを完成してくださった神様を信じ、神様の与えようとしてくださっている救いをご自分のものとしてください…。心からお勧めいたします…。

また、クリスチャンの皆さん。私たちの判断基準は、どこにあるでしょうか？自分の評価が下がったか、上がったかなんて…。そんな、ちっぽけなこと…、どうでも良いと思いませんか？イエス様の基準は、神の栄光であり、「人の救い」でありました。ある方の“永遠”が懸かっていたのです！それによって、御怒りになるか、忍

耐をもって、寛容に務めるかの判断をされたのです。私たちは、その…、キリストの霊を受けているのです！だったら、私たち…、言えないですよ！「私は、寛容になんてなれません！」なんて…。どうぞ、神様の寛容を覚えて…、皆さんもそれに倣う者となっていきましょう。心から、お勧めいたします。最後に、お祈りをもって、今日のメッセージを終わらせていただきます。